

# 令和7年度 宇都宮市都市再生整備計画評価委員会 議事録

○ 日時 令和7年10月21日（火）午前9時～午後4時45分

○ 場所 宇都宮市役所本庁 14大会議室

○ 出席者

## 委員

池田裕一委員，古賀誉章委員，渡邊美樹委員，蟹江教子委員，高橋功委員

## 臨時委員

塚原毅繁委員，谷田貝賢司委員

## 関係課

### 【宇都宮大学周辺地区（第2期）】

都市整備部 東部区画整理事業課 大沼克行課長

建設部 LRT管理課

道路建設課

道路建設課

河川課

都市整備部 NCC推進課

市街地整備課

公園管理課

### 【宮原運動公園周辺地区】

魅力創造部 スポーツ都市推進課 田村綾子課長補佐

## 事務局

都市整備部 市街地整備課 上田英夫課長

○ 議事録

1 開会

2 挨拶

3 宇都宮市都市再生整備計画評価委員会の開催について

評価委員長に池田委員を選出

議事録の署名者に古賀委員と高橋委員を選出

(1) 会議の成立

会議成立の要件である，委員総数の過半数が出席していることを事務局から報告

(2) 会議の公開

会議の公開及び傍聴者はいない旨を事務局から報告

(3) 都市再生整備計画

### 事業概要説明・現地視察

資料1-1，資料1-2に基づき，事業概要について関係課より説明

[説明者]

・宇都宮大学周辺地区（第2期）：東部区画整理事業課

・宮原運動公園周辺地区 : スポーツ都市推進課

その後、事業実施箇所を現地視察

#### 4 議事

##### 都市再生整備計画 事後評価について

東部区画整理 事業課 ・スポーツ 都市推進課	資料2-1, 資料2-2に基づき、事後評価について説明
池田委員長	それでは皆様から質問・意見があったらお願いしたい。
渡邊委員	宇都宮大学周辺地区について、越戸川バイパス整備における今後の区域外整備（下流域）における見通しはどうか。
河川課	着実に下流域の事業を進められるよう引き続き事業への理解を求めていく。
高橋委員	<p>質問ではなく意見ということで聞いて欲しい。両地区とも現場を視察したところ、生活環境の向上という良い影響が出ていると思う。しかし、今回の評価の指標を見るとうまく反映されていない。フォローアップの指標があるので良いが、計画時の指標に対する工夫が必要である。</p> <p>宮原運動公園周辺地区の指標1の利用者数や指標2の満足度にかかる指標はわかりやすい。両地区に共通している指標である、地区内の人口割合は、本市はLRTができたことで沿線の人口に良い影響が出たが、人口減少の時代なので、指標として設定するのは厳しい。また、そもそも計画期間である5年以内に事業効果を出し、人口を増やすのはハードルが大変高い。そのため、例えば本市は、人口は減少しているが、世帯数は増加しているので、世帯数を指標にするとしてみるのもいい。良い整備をやっているのだから、それがわかるよう、評価を少しでも工夫する必要がある。</p> <p>公園の整備についての提案だが、宇都宮大学周辺地区（第2期）の区画整理地内の近隣公園は、一時避難所として避難者が集まるので、例えば、排水施設を利用した簡易トイレといった、防災に繋がる施設の整備をするなど、工夫するといいいのでは。</p> <p>最後に、渡邊委員が聞いた越戸川バイパスの整備だが、下流の工事まで全て終了しないと工事の成果が見えないとなると、指標3の浸水想定面積を評価指標にするのは難しい。住民の生活環境は整備によって良くなっているのだから、それを表しやすい指標にすることが必要である。</p>

東部区画整理 事業課	今回の指標は3つとも評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められたので「△」をつけている。今後、計画策定時には、指標の設定や整備内容についての今回のご意見を活かし、検討していきたい。
谷田貝委員	宮原運動公園周辺地区で、4) 定性的な効果発現状況について、明保野体育館の空調設備の設置によって熱中症対策に繋がったとあるが、体育館の床の改修も加えると、年間を通した快適なスポーツ活動環境の確保に繋がったことの説得力がより強くなる。
スポーツ都市 推進課	明保野体育館は床も含め、大きく改修を実施している。利用者のスポーツ環境の向上につながっているので、指摘された部分について追記させていただく。
渡邊委員	宮原運動公園周辺地区の指標1の利用者数は、計画を作った平成30年度は従前値9,661人となっている。現地で改修前の野球場の観覧席は9,000席と説明があったが、平成30年度には野球場は使われていなかったのか。それとも野球場自体は使っていたが、東日本大震災でナイター設備が壊れたために来客数が減ったから、今回の整備では席数を減らしたということなのか。
スポーツ都市 推進課	野球場は大会主催者等の判断により、興行等の利用がなく、観客席の利用が少なかったため、実態に合わせた施設の規模感で整備した。平成30年度については野球場の解体作業があり、従前値の中には野球場の利用者は入っていない。解体作業前の平成28年度は野球場の年間利用者数が5,000~6,000人程度なので、それを考えても利用者数は伸びている。
池田委員長	この計画時の指標1には野球場利用者数は入っていないということか。
スポーツ都市 推進課	事後評価の指標1の評価値には、野球場利用者を含めた数字が入れているが、従前値に野球場は解体作業中で利用できなかったため、含まれていない。
池田委員長	いずれにしろ、目標値に対して評価値は倍ぐらいになっているので、良い結果になっている。それ以前の状況を見てもかなり大きく伸びている。従前値は変えられないとしても、どこかにそういう説明を入れたほうがいいのでは。

スポーツ都市 推進課	<p>改修を行った結果、各施設とも利用者は伸びている。もともと野球場・庭球場については利用率がかなり低下していた。ご意見いただいた従前値については説明を補足して入れる。</p>
渡邊委員	<p>利用者数として団体・観覧者・親子連れの人数をカウントしているのか。そういった方々も含めてカウントできれば効果がよく見えてくるのでは。</p> <p>指標3の地区内人口割合についてだが、施設の利用に対して地域住民の優遇がないようだが、地域の方々に対し、より開かれた施設であるとその地域内の人口も増加するという効果があるので、優遇がないと地域内人口の増加といった効果が見えないのではないか。また、宮原運動公園は宇都宮大学周辺地区の公園と比べ、自由に利用できる場所が少なく、柵で囲まれて管理されている場所がすごく多い印象である。</p>
スポーツ都市 推進課	<p>宮原運動公園は野球場や庭球場は利用者をカウントできる一方、遊具を誰もが自由に利用できる公園等の箇所もあり、利用者数を正確にとらえることは困難である。公園等の利用者も多くいらっしゃるのので、把握している以上に利用者はいると認識している。</p> <p>指標3については、人口減少の中で達成は難しかった。施設の管理については、24時間開放して多くの市民が利用できるような施設もあるが、深夜や早朝の利用など、周辺住民への配慮が必要なこともあるため、柵を設け、管理している。</p>
渡邊委員	<p>バスケットボール場では出入口が2箇所あったが、大きい出入口に鍵がかかっていた。利用しやすいよう、2箇所の出入口を開けておくとよいのでは。</p>
スポーツ都市 推進課	<p>指摘いただいた意見を踏まえ、鍵の管理も含め、施設管理者と対応を検討していく。</p>
蟹江委員	<p>他の委員と同様で、地区内人口については、死亡・転居・出生など複数の要因が絡んで変動するため、指標としては必ずしも適切ではないと考える。市内の他地区から当該地区へ転入するケースもあり、特定の地域に人口を集中させたいという意図がないのなら、指標を再検討する必要がある。</p> <p>宮原運動公園周辺地区の明保野体育館では若い世代も楽しそうに活動しており、宮原運動公園でも子どもたちが元気に遊んでいた。地域住民にしっかり活用されているので、整備した意義は大きかった</p>

	<p>と感じた。</p> <p>宮原運動公園は鍵の数が多く、緊急時に即時利用するには支障が出る可能性がある。防災上の観点から緊急時のことも含め、管理方法を工夫していただきたい。</p> <p>公園の遊具に関しては、子どもの怪我防止のために継続的で丁寧な点検してもらいたい。また、万一怪我をした際に迅速に対応できる体制が整っていれば、地域の方々が安心して利用できると思う。</p>
東部区画整理事業課	<p>計画時に設定した指標である地区内人口割合であるが、今回の事後評価では目標には届かなかった。事業を行ったことで良くなったという意見もあるが、その意見が指標には反映されないのは残念な結果である。様々な事業で整備効果が示せるよう、今後の計画にはよく検討して指標を設定する。</p>
NCC推進課	<p>人口の指標については、NCCの形成を具現化させるための立地適正化計画に基づき、人口減少を迎えていく中、コンパクトなまちづくりにしていかなければ持続的な発展は難しいため、都市機能誘導区域や居住区域などの利便性の高い地域に人口を集中させようという政策的な考えで取り組んでいるので、ご理解いただきたい。</p>
塚原委員	<p>指標の地区内人口は、何に基づいて、どのような方法で確認・把握しているのか。地区外の人でも地区内の公園を利用しているが、それは指標に反映されていないように思う。</p>
東部区画整理事業課	<p>地区内人口の算出方法については、住民基本台帳リストから地区内に居住している住民を抽出し、算出している。</p>
塚原委員	<p>アパート住まいの人や外国の方の中には、自治会に入っていない人や住民基本台帳に記載されていない人もいる。そういう人たちも公園は利用している。その人たちは地区内人口に反映されていないのではないかと。時代というか、様々な生活形態が増えてきているので、指標の算定方法をもう少し工夫する必要がある。</p>
池田委員長	<p>人口はいちいち数えるわけにはいけないので難しい。整備計画策定時は、指標値を把握していけると考えていても、時間が経過すると想定していたよりも様々な人の集まり方や暮らし方が出てきて、把握できなくなっている。</p>
東部区画整理事業課	<p>塚原委員のご意見の通り、区域内に住んでいる状況でも数値から漏れてしまっていることもある。今後の計画において関連性や整合</p>

性が取れるように、指標の設定を検討していく。

古賀委員

各委員からの意見と一緒にだが、事後評価の指標については計画の策定時に設定した指標でやらざるを得ず、評価時に指標の変更ができないというところがある。国に事業効果を示すため、指標は重要であり、事業と同様、事業効果については慎重に議論した上で決めたほうがよい。

また、人口の動きはかなり遅れて出てくる。事業完了後10～20年かけて動きが出てくるため、5年という短期的な指標としては難しい。例えば施設の利用者数を指標とすれば、施設ができれば、すぐに人が集まり反応が分かりやすい。公園の利用者数は不明というが、例えば1週間の利用者をカウントすればある程度推計できるので、これを指標とすることもよい。

防災については、今回、防災に配慮している箇所とそうでない箇所があった。周辺の地域や施設とかとのバランスもあると思うが、防災は最近では大切なキーワードであるので、良い住宅地を造るための一つの要因として積極的に捉えていくといい。

全体的には地区の課題を丁寧にすくい上げ、適切に整備していると評価できるが、一方で宇都宮らしさが漂白されてしまって、全国どこにでもあるような風景になってしまっているように思った。それが他の委員が指摘した、柵での囲いとか管理が厳しいという印象につながっているのではないだろうか。どのようにしたら宇都宮らしい街並みが作れるのかも少し考えていってほしい。そういった意味では「やわらかい区画整理」はもともとの曲がった道路を残して整備するなど新しい可能性を感じる。

景観審議会の委員をやっているが、見え方でかなり印象が変わってくるため、高い木や生け垣などの緑を植えれば、柵なども隠れて印象が良くなるように思う。そのため景観の事前審査では、緑化を強く指導しているが、市の広い土地で緑（高木）が全然ないというのは、指導する側としてよろしくないので、緑化はもっと積極的に取り入れてほしい。

また、区画整理の場合は住民が集まって話し合う機会があるので、「地区計画」などの方法も検討しながらどのようなまちを作っていくか、緑化をどう考えていくかなど、住民がしっかり話し合い、住民発意のまちづくりをしていけるといいと思う。

池田委員長

宇都宮らしさとはどういうものか。

古賀委員

それを考え、議論し続けることが重要である。

池田委員長	それぞれの地区によって宇都宮らしさは違っててもよいわけだから、それぞれの地区に住んでいる人がどのように思い、変えたいかというところが重要であるということかもしれない。
公園管理課	現地視察の際に質問いただいた、地域による宇都宮大学東南部第1土地区画整理事業の近隣公園の利用状況について確認したところ、地域のお祭りで年1回利用していたのでご報告する。
池田委員長	宮原運動公園の防災設備について、「地域による防災訓練を実施することにより、地域の更なる安全安心な居住空間の形成に繋がるものと考え」と書いてあるが、地域住民がすでに防災訓練を実施しているのか、防災訓練をやるような機運が高まっているのかなど、情報があったら教えて欲しい。
スポーツ都市 推進課	防災訓練はまだ実施していない。設備を整備するだけでなく、災害発生時に設備を使えることが重要なので、施設管理者と地域の皆様と共に検討を進めていき、訓練の実施に繋げていき、設備を効果的に使用できるようにしていきたい。
池田委員長	防災に地域住民が参画していくということは、今、話題になっている。しかし、災害に備えなくてはと言いつつも、腰が重く、いざというときまで動かず、地区防災組織を作るにもなかなか進まないこともあるので、設備の整備をきっかけにして是非進めて欲しい。防災訓練を従来型の型にはまった形式でやるより、お祭りみたいな形で楽しく取り組めるとよい。
谷田貝委員	<p>陽南地区の連合自治会長と自主防災会長を務めているが、例年、陽南地区では陽南第2公園で防災訓練を実施している。防災設備がどこにあるかは周知しているので、災害時に使う場所は皆さんと話している。しかし、視察の中で、宮原運動公園のかまどベンチのボルトが思ったよりきつく締まっていて、どうやったら災害時に迅速に使用できるのかを含めた形での訓練はできると思った。今後、地域で協議していきたい。</p> <p>また、陽南地区は高台にあり、大雨時にも溢水する箇所が少ない比較的安全な地域である。そのためか、顔を見合せ、安全確認する意識が希薄になっており、防災訓練に人を集めるのも大変な状況である。自治会の加入率が下がっている中で、災害発生時に自治会未加入者についてはどう対応するかなど、これからどうするかが課題となっている。</p>

池田委員長	<p>谷田貝委員が話されたことは、なかなか難しい問題であって、さらに人口減少の話も関わってくると、かなり難しい。今回の事後評価とは話がずれるが、非常に重要な話だと思うので、計画策定時にはそのようなことも色々と考えてもらいたい。</p> <p>それでは、宮原運動公園周辺地区の事後評価シートについては、様式2-1に記載のある2)指標の達成状況の、指標1の従前値について説明を加えることと、4)定性的な効果発現状況について、明保野体育館の床の整備なども加えて修正を行ってもらいたい。また、両地区について、施設の整備等の計画段階での植栽や本市らしい景観の創出について盛り込んでもらいたい。修正の取りまとめにおいては時間の関係や手続きもあるので、僭越だが委員長に一任でよろしいか。</p>
委員一同	異議なし

## 5 閉会

事務評価に係る今後の予定として、いただいた意見等を反映して修正を行い、委員長確認を経て、国へ提出することと、本日の議事録を速やかに作成し、委員の皆様を確認いただきたいと考えていることを事務局から報告。